

飯能日高
公式LINE



友達245人到達!

埼玉
土建



加入していて良かった埼玉土建
NEW動画配信中

飯能日高

発行所
357-0005 埼玉県飯能市原町142-5
埼玉土建一般労働組合
飯能日高支部
発行人 教宣部長 岩間 靖友
Tel 042-974-0330
Fax 042-971-3287
E-mail hannouhidaka@saitama-doken.or.jp

2024秋の拡大月間

波に乗り40人達成を



鈴木海斗青年部長が初めての「団結ガンパロー！」

一歩でも二歩でも
前進しよう

8月4日(日) 9時半

から飯能市富士見公民館
で「秋の拡大支部活動者
会議」が全分会から32人
が参加し、支部の秋の拡
大目標40人をやりきるこ
とが確認されました。

会議の中で柳戸支部長
から「仲間との対話交流」

として、支部長から議題
が仲間に投げかけられ、
それに応えるという交流
が行われました。また、
分会作戦会議も行われ各
分会で今月間取り組まれ
る拡大ビンゴの目標選
びや拡大行動日、分会拡大
出陣式の日程を決め、午
後の出陣式の決意表明で
使うプラカードの作成も
行いました。

会議の最後に「組織推
移を見ると楽観視はでき
ない。一進一退を繰り返



高萩分会若い仲間がたくさん

して大変な状況だが、
一歩でも二歩でも前進し
ていけるように頑張ろう」
と岩間副支部長が閉会の
挨拶をおこないました。
午後1時からは「秋の
拡大出陣式」として飯能
市の徳樹庵で全分会から
33人の参加で行われまし
た。次世代(49歳以下の
組合員)の仲間も多く参
加し、3分会から9人が
参加しました。その中で
も高萩分会が2人の新し
い次世代層の仲間を連れ
て参加し、次世代が多い
高麗川分会に続き、徐々
に高萩分会も次世代の波
に乗ってきています。

埼玉土建本部から、来
賓として根岸中央常任執
行委員が出席し「次世代
部が活気に溢れている飯
能日高支部に來られて嬉
しい。今月間も全員の先
頭になって頑張ってください」と挨拶がありました。

乾杯後には、分会の枠
を越えて仲間がお酒を注
ぎ合いながら対話を楽し
んでいました。その後分
会決意表明を行い、改め
て支部の秋の拡大目標を
やりきる意思統一を行
いました。詳細次ページ

2024年原水爆禁止世界大会IN広島 報告 高麗川分会 町田暢之

「核抑止論」から脱却し 平和な世界を引き継ごう

笑顔を守るため 平和を発信しよう



原水禁世界大会の講演に耳を済ませる町田さん

8月4日から6日の3日間、広島で開かれた原水爆禁止世界大会に埼玉土建飯能日高支部より参加した体験についてご報告します。初日の4日は平和資料館を見学しました。展示された資料によって伝わる原爆の悲惨さに心が痛く悲しくなりました。親子連れで見学していた子どもも真剣な顔で見えていました。子ども連れのほか資料館には外国からの見学者も多く、驚かされました。原爆の悲惨さを知って母国の人々にも伝え、「二度と起こらないように広めてくれたらいいな」と思いました。

世界大会では各国から戦争に反対する参加者の演説を聞くことが出来ました。アメリカがフイリピンを軍事化して中国を敵国とみなし、トマホークを配置して軍事拠点にしていること。フイリピンの市民運動家とその軍事拠点を撤退させ、戦争を起さないうために世界大会で運動している事など世界平和の取り組みや、解決するべき数々の問題が語られました。私は、東南アジア諸国連合ASEAN 10カ国のように非核平和の世界とアジアのために、日本は東アジアの国々と手を取り運動と交流をすすめ、戦争のない平和な地域にするべきだという意見に賛同します。

戦艦大和を生んだかつての軍港都市、広島県呉市では日本製鉄の製鉄所跡地を防衛省が買収し、新たな防衛拠点をつくる計画が浮上しているといえます。日本政府は「抑止力」強化を口実に「敵基地

攻撃能力」を保有し沖繩はじめ南西諸島の軍事化など大軍拡を進めている。唯一の戦争被爆国である日本の政府は「核抑止力」論から脱却し核兵器禁止条約に署名・批准すること

を強く求めていくべきだと思いました。原水禁世界大会には笑顔が輝いた皆さんの子どもたちが参加して、うれしく思っていました。この子どもたちの笑顔を守るため、私自身も伝えていきたいと感じました。



現地の方の説明を聞く参加者

繰り返してはならない悲劇 未来への責任

第二次世界大戦。それは人類にとって、目を背けることのでない大きな傷跡を残した、まさに絶望の象徴でした。何千万という尊い命が失われ、その多くは無垢な若者たちでした。彼らの未来は、戦争という名の暴力によって無残にも奪われてしまったのです。特に、オッペンハイマーが開発した原爆の投下は、

戦争の悲劇をさらに深く、そして複雑なものにしました。一瞬にして都市を壊滅させるその威力は、人類に科学技術の光と影を突きつけたのです。しかし、過ぎ去った過去は変えられません。私たちにできることは、その悲劇から教訓を学び、二度と繰り返さないように未来へ進むことではないでしょうか。今、私たちが生きていく「現在」は、過去の戦争を経験した人々の犠牲の上に成り立っています。そして、この「現在」は、未来を生きる若者たちに託されています。

戦争の悲劇を風化させることなく、平和の尊さを胸に刻み、より良い未来を創造していく。それは、私たち一人だけではなく、未来を担う若者たちと共に歩むべき道だと信じています。若者は新しいアイデアやエネルギーを持ち、共に手を取り合うことで、より良い未来を創り出すことができるでしょう。戦争の記憶を語り継ぎながら、手を取り合って進んでいきましょう。二度と悲劇を繰り返さないために、そして未来の世代に平和な世界を引き継ぐために。

高麗川分会

町田 暢之

